

礼拝説教要旨

2011年1月9日

宮村武夫師

『徹底した聖書信仰・徹底した聖霊信仰』

ヨハネ14：12～17

1. 序

- (1) 今朝、西大寺キリスト教会の主日礼拝に出席できる恵み、その背後の導き一冊に集中すれば、『いつ聖霊を受けるのか』、展開すれば、宮村武夫著作両者を結ぶ絆、それは徹底した聖書信仰・徹底した聖霊信仰
この時に、一人の先達のことばに励まされ、一つの態度、覚悟を心に刻みたい。
聖書が証言する「一つの偉大な事実に対して、巖のような確信を抱き続ける。」
そうです。聖書は、事実、恵みの事実の証言です。

- (2) ヨハネの福音書14章12～17節を、『徹底した聖書信仰・徹底した聖霊信仰』との主題で。主イエスのご人格とことばとみわざを味わい深く伝えるヨハネの福音書14～16章は、慰めに満ちた助け主を主イエスご自身が約束なさる恵みの事実を中心
その中で14章12～17節、特に15節と16節に焦点を絞ります。

2. ヨハネ14章15節、「あなたがた、あなたがたは」

- (1) 「あなたがたがわたしを愛する」(15節)

- ① 「あなたがた」は、主イエスの弟子・使徒、さらに最初にヨハネの福音書を読んだ人々、そして今、ここでヨハネの福音書を読んでいる私たち
聖霊ご自身の導きによる、恵みの波紋の広がり、そのただなかでヨハネの福音書を味読
② 聖霊と愛。愛は聖霊に委託されており、聖霊の働きがなければ、私たちは愛することができない(隣人への愛も神への愛も)。

- (2) 「あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。」(15節)

聖霊ご自身の働きがなければ、キリストの戒めを守ることはできない。
イエスを主と信じ愛して生きるとは、イエス・キリストの戒め・ことば・聖書に聴従。愛とことばとは、不可分
聖書についての根源的恵みの事実、Ⅱテモテ3章16、17節。聖霊の導きにより、みことばが私たちの心に刻み付けられ、生活・生涯、教会形成、文化活動、歴史形成に現れ結実
その過程で日常生活がいかに重要であり、鍵(Ⅰコリント10章31節)

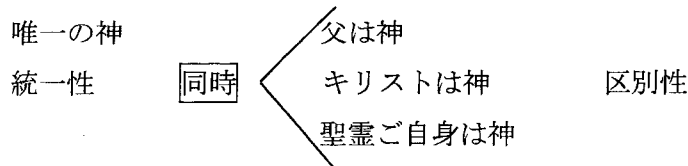
3. ヨハネ 14 章 16 節、聖霊ご自身について二本の柱

「わたし（キリスト）は父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主（聖霊ご自身）」

（14 章 16 節）

（1） 聖霊ご自身は三位一体の中。三位一体、永遠の愛の交わり。人間・人格的存在の根拠。

聖霊ご自身は父と、また子と同質（神性）であり、かつ永遠



（2） キリストと聖霊ご自身の不可分の密接な関係

（イ） I コリント 12 章 3 節

「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です。』とすることはできません。」

（ロ） ルカ 4 章 18～21 節、聖霊が注がれ、キリストの御業の展開

4. 集中と展開

（1） 集中「すでに」

「はじめに神」創世記 1 章 1 節

詩篇 119 篇 64 節、恵みの先行

（2） 展開「ますます」

イエス・キリストによる約束、その完全な成就・完成は、「いまだ」

終末論的信仰（主イエスの再臨、新天新地）に、聖霊信仰は深くかかわる。自己満足と絶望から解き放ち、忍耐と希望の道

「もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。」

（ローマ 8 章 25 節）